名家歌初子冬目錄

乾坤之部

十月 一　神無月
小六月 二　小春
初冬 三　冬ざれ
玄猪 四　玄猪餅
神送 五　神留守
神集
神迎 六　御命講
十夜
芭蕉忌 七　御取越
夷講
風 八
初時雨 九　時雨
冬雨 十二
霜 十四　霜夜
霜柱
初霜
氷 十六　薄氷
厚氷
氷柱
初氷 十五
鐘氷 十七　冴
鐘冴
月冴

凍 十七
初雪 十九
雪吹
雪礫
雪沓
霙 廿五
冬籠
相火桶
埋火
蒲団
足袋 廿三
炭竈
炭団 廿五
冬夜
冬野
冬川
冬至
被初
吹革祭
神樂 四十
風呂吹
炭焼
師走
冬日 廿六
冬月
冬山 廿九
冬海 四十
冬田
霜月 四十
髪置
子祭 四十二
空也忌 四十三
大師講
納豆 四十五
芝居顔見世
千菜
雞卵酒
生姜酒
藥喰 四十七
御佛名

胼 十八
雪 廿
深雪 廿一
雪見 廿二
雪丸ケ 廿三
雪搏
雪達广
雪車 廿四
綱貫
橇
北窓塞
冬搆
口切 廿八
火桶
巨燵 廿九
置巨燵 卅
湯婆
衾 卅一
綿入
頭巾
炭俵 卅四
炭賣

寒入 四十九
寒念仏 五十
寒見廻
札納 五十二
節季俵 五十三
年忘
[illegible] 五十六
餅延 五十七
春近
年尾
年夜
寒中
寒水
寒空 五十一
古暦
婆等 五十四
年市 五十五
瓦拂
餅花
行年 五十九
年惜
除夜
寒垢離
寒晒
寒月
衣配
年木
節分
年内立春
掛乞 五十八
年暮
大二十日
岡見 六十二
寒聲
寒紅
寒雨
煤拂
年用意
松迄
餅搗
春待
年名残 六十
大年 六十一
犯刈神事

年籠

植物之部

落葉 六十三
枯菊
枯尾花
枯蓮
麦蒔 七十
葱 七十二
菜花 七十四
歸花
寒菊
枯葉散 六十四
枯萩
枯芦 六十七
枯草 六十九
蕎麦刈 七十一
水仙
八ッ手花
櫪花
冬牡丹 七十六
冬椿
冬梅 七十八
枯柳 六十五
枯萩 六十六
枯薄 六十八
冬木立 六十九
茲曳
石蕗花 七十三
枇杷花
椿花 七十五
寒椿 七十七
室咲梅

寒梅 七十八

生類之部

千鳥 七十九
鴛鴦
鶯子鳴
鷹狩 八十六
列卒繩
腹鳥
冬蠅 八十九
網代守
鰍鰊
小夜鶴 八十
鴨 八十一
鷹鳥 八十三
鷹 八十五
鳥狩 八十七
木兎 八十八
冬蝶
羅 九十
杜夫魚 九十一
水鳥
小鴨 八十三
鳥狩
力蚓 八十七
寒苦鳥
凍蝶
氷魚 九十一
浮寢鳥 八十一
鈴鴨 八十四
鳥叫
夜興引
網代
鰒 九十一
生海苔
牡蛎

乾鮭 九十三
鱈
鰤
鰰

追加之部目錄

時雨月 九十四
立冬
日短
冬菊
冬芭
冬草
霜枯
枯桐
枯桜
霜蚓
枯柏
枯芭蕉
枯茨 九十五
枯葛
枯蓮
埋生姜
蕉葉積
霜枯
枯蕓
蕨煙
古火桶 九十六
懷炉
手炉
温石
白炭
枝炭
小野炭
厚衾
古衾
散巣
冬鷹 九十七
冬鶯
冬雁
冬鹿
鰍

竹筍　鯛味噌
庭燎　新恩講
乙子餅　臘梅
退儺　門松賣
歳朶賣　九九　穂長賣
年取　宵飾
いろは年　年の湊　百
年の坂　年の関
別歳　年の宿
　　年の瀬
　　年浪
　　春隣
　　年寸夜
　　年一夜
　　羽子板賣
　　小晦日
　　氷鮒
　　乙子朔日
　　暦巻納
　　蒸竹賣
　　門松立
　　鮭突
　　十二月　九九

都而之百十五題

俳諧發句題砂子集

八雲亭守編
等園等哉校

冬之部

十月

十月や柄ちゃうしけあるとくりの　樗堂
十月や柳ちゃうすまるまるとうす　升六
十月や鉢かくるまるとくれ　成美
十月やちゃうしけあるけ行あるけうち　光外
十月や沖ちゃうあるあるあるあるき　蒼虬
十月や雲ちゃうしけ行のこ　卓池

十月や奇石ひらく小杉原　風朔
十月や外国の雲ふきつる　枕像
十月や高野おろしに雪の山　九起
常恒なる十月めくらの家ゆ　柏樹
十月や漣よせる耳の底　由哲
神無月　宗任よ水仙ぬれて神無月　蓑村
小無ふく風や神なし神無月　巣兆
打ゆ初ふてよく降る神無月　芝夷
相の国を雲の底なし神無月　阿鵬
ふるひうつる雲ちらして神無月　風朔
小海底ゆ小綿ちらす神無月　老白

ふるる無の降るまちや神無月　由哲
里あるるまるる行や神無月　杉什
豆腐ひく寺の鼠ゆ神無月　見外
抜ぬ白の つまぬ風ゆ神無月　英山
抜舟ふる白ひるけり神無月　物宜
椎の木を毎日ぬれて神無月　琉古
小六月　明るるこの行き指の寄や山　寄帆
野ともしを約する舟ふる月　太物
その奥ゆ兎も出ずふる小六月　風朔
井戸ゆふ琉球ぬ小六月　淡史
ふる時ゆ出て去るるる小六月　由哲

小春

白鷺や木の間の雲の小六月　為山
朝夕を定しき昼は小六月　就古
海は青一日遠き小春かな　暁臺
山も今枯尽の気に小春かな　蓼太
芦の葉はさくらさきし小春かな　芝義
百姓の手のやすむる小春かな　寛永
行人のまた夕暮かゝる小春かな　月居
藪掃てのきたかたる小春かな　蒼虬
清水を見せまくるゝ小春かな　朝陽
猿のかけすわや小春のまかくれ　風朗
色川のゝとよりはかは小春かな　而后

あるく人も絶ぬや小春の竹箒　絶之
手入して扨やや小春の庭はむら　京池
都の宮も翻すらん小春かな　嘉白
鳥の京もはあそらもよき小春かな　慎機
雲も人も山を小春はなかなかあかな　佗尼
思ひくと麦の芽はあふ小春かな　何芸
歩みれと母かい小春はよしな　一具
残る行く人もえみもうる小春かな　文操
京は遠き中里の小春かれ　梅室
人ここを出て磨帰小春かな　林曹
船の人の見へつのなく小春かな　由蛙

初冬　和名抄に一名冬至とも無とも云けり　曉臺書翰

冬至　冬至の日水田に水の有るを忌む　乙二記儀

冬至の日庭に青菜を置き二日目に水に入れ
けるに色なかりけるを以て冬の物
なるを知り断りなるべし　松誠杉什

初冬の時に柿を採きたるに
初冬に水田に水の有るを一明
冬至に水田に水の有る葱細　萩村

冬至の日嵐に雪の有る　閑文

冬至の日に雪なくして
冬至の日に雨なく風なし　士明
冬至の日に月の光なし　易思
冬至の日に雷を聞く　老崔
冬至の日に古米一石粥を作る　後篇
冬至に小豆を煮て玄猪を祭る　夢古
玄猪　亥の日　一名粥を作る
玄猪に餅を用ひる義は嵐を免
れ　万和
御玄猪の日に嵐の巣を作る　風明
冬の寒行に玄猪を祭る　一奥
玄猪に南天を置く　茶白
玄猪の箱を朝　蓬莫
鶏蓋を用ひる　東池

物忌の印しるしたる玄猪小田苗
高稽餅 神主あり餅の日玄猪の日 松成
何もかくかうもかしこまりて餅 山外
宮村戸和玄猪の餅を二折うり
神送 我宮の矣色神もち仕せ 一束
風雨おとまれる事和神送り 渡物
神送り野辺ゆきの杉の風 双鳥
あるたのもしくもん神送り 青扇
女夫ともに仲和神送り 天越
燈つきうる雅をかうり神送り 岳流
何和まりもの行あるため神送り 一具

神旅 人をいさ神の旅もの白の浴 庭吏
細色の苦もうまり神の苦 一具
神の路うてうしてうまり小 芦洲
御色は野足見えて神の旅 和村
神の旅我もは仕の形あり 祝守
神留主 葱は玉神の留もと白人なり 成美
松風和神は留もうて張さある 家潤
二月神の留もとうたく 西月
形ゆゆ置うり神の留も 吉白
もの森も和葉ゆうり神の留も 吏則
ゆゆ餅をきさ行之神の留も あゆあ

神集　高くまくら白風もなり　神集　蟬羽
三尺のつゆもまとれて神あつめ　六村
宮まうう都ぬかりもや　神集　聚集
神迎　一日はなを掃て神迎ひ　螺夢
神むかひあるぬ人もなきうう　迎潮
毛穴ふるの宮や神迎ひ　甚山
人多きを海をや神むかひ　乐為
鳴る歌を川原て結や　神迎　亀潮子
定めあるものあれてかるる迎　史情
夜をかくるあるれて神迎　珠弓
神迎一日はて　対るあるれ　山外

達磨忌　達磨忌ふるかるる　白雄
達磨忌ふるかるる　完来
達磨忌ふるかるる　乙二
達磨忌ふるかるる　孝潮
達磨忌ふるかるる　高白
達磨忌ふるかるる　沙路
達磨忌ふるかるる　四山子
達磨忌ふるかるる　面白
達磨忌ふるかるる　山梨
御命講　山里はなを　万嶽
御命講やはのよきまの　一具

十夜

御命婦の伝ふひとをとこ
菜大根の織ぬ四方の海
はるかなる海やるかたなしとん
おもしろく波よのぬ御命婦
我ゆゑ海にうるる十歌仙
樽夜寒の月もこめぬ十歌の
つゆ結ぶ家を離れる十歌仙
家つゝの紅葉十歌仙
武士のかくれて来る十歌仙
紅葉して十歌の紅もたのゝ

洪波　渋皮
阜池　白雄
素行　芝夷
也哲　風居
葵太　風朗
白雄　京池
芝夷　一具

立ちて居ておくるる千やか　流外
ちるこのみうむ十歌の波か　あるあ
岩つまてうまれしかりて千歌か　一浦
よりひまて中絶いてく十やか　双鳥
絶くまてなくかりて十やか　其山
ものもちかりうめ十歌を　孤堂
恋結ぶ世くも十歌のよりか　京邨
寒月をそはるれ十歌を未冥　樗良
寒月をうるを歌をおくるる　冥交
世をうるをまふふをのしれか　士湖
いてくををを蔦は　孤砂　芭蕉

芭蕉忌

としわすれこそなく女の裾[?]　升六
木兎に来て我をさわぐや庵の昼　蒼虬
あふみのうらの旅して初しくれ　鳳朗
梅咲ねて海棠多し庵の日　露白
としわすれや小しくれ月の一夜きき　月居
杖笠をあつめるしわれまうて[?]　巡湖
笠笈や浮世の仕舞も月の暮　一具
しくれ行や[?]　為山
湖山のしくれをかけて[?]　梅通
としわすれや幸ひ今の帰り咲　宋那
なかなかり[?]忘れて田[?]　梅室

御取越

旅もしのりおかみ[?]御取越し　巣兆
西東ともに門堂の施くや御取こし　大江丸
親舟そ内家のあるおとりこし　鳳朗
鬼つ角をりおとそかれてお取越　由誓
門前に餅花や御取越　句光
寒さ未て菜漬のつけや御取越　祉山
万才は信ず名をのし御取越　一具
杖笨そ広口をせし御取越　耕雪

夷講

座敷うし梅ならひの夷講　暁壺
手に梅む[?]の長き[?]ぞ夷講　大江丸
えひす講この物干をつくりきれ　芸長

風

[illegible]を詠て越を夷縫　蓑虫
咲のよき舟のよすがや夷縫　与池
うゝかゝの[illegible]のうへや夷縫　淡文
[illegible]をのそきやうを縫　沙弥
[illegible]ちるも鐘屋より夷縫　大梅
草見袋うゝ[illegible]て夷縫　五湖
[illegible]つひやいそぎぜし　水竹
舟さて浮よかうえひを縫　一具
[illegible]を[illegible]考へえひを縫　由梵
汁椀よ海うゝれうえひを縫　紙年
ホうしやり[illegible]も[illegible]ちん　樓堂

ホうしやうもうひうはうえう　咬壺
うかしの中よ出うけき枯木や　閑文
風や海一ちいう出る月　士湖
ホうしや紙写る舟の浮うき　月居
ホかしや[illegible]数山を山のうへ　子崖
こうしや[illegible]ちまの舟心　杜鵑
こううのの[illegible]月の出る　渡地
ホかしや[illegible]墨の[illegible]　鶴々
風やくれて[illegible]ゆうの[illegible]　九起
[illegible]ホうし[illegible]磯の鶴　梅宝
ホうしや古和の地[illegible]ちん　風湖

[illegible]やメてもゆるむ釜の細　流芝
こがしし[illegible]ゆ[illegible]ら[illegible]　朝陽
さらさしや初鐵あつかの野の蘭　紫年
風を伝ふて沼ちう岩屋の竹　素屋
ふかしや[illegible]鐵を焚て時鳥　南松
ふらしや[illegible]を選ひへ　一具
てかしの[illegible]れくやちの新　仙砂女
ふらしや[illegible]ちうの海をわし　爽則
ふらしやちうの時き霧のうけ　京郎
[illegible]や砂[illegible]れ也山桃点　弦[illegible]
初時雨　蕎[illegible]の[illegible]ちうかし初[illegible]れ　芝村

初りの[illegible]市人[illegible]れ[illegible]　也有
一袋おちき[illegible]初[illegible]れ　白雄
[illegible]かるれて[illegible]初時雨　月居
初[illegible]れ[illegible]宮の[illegible]　士朗
[illegible]て浦面行人やちつれ　升眉
[illegible]ちつ[illegible]初時雨　左郎
一[illegible]ちつ[illegible]初時雨　蓑吼
扇[illegible]ちうの[illegible]初時雨　風朔
二三日[illegible]ちかしてちつれ　東述
[illegible]けもなくて[illegible]の初[illegible]れ　万象
山[illegible]れ[illegible]ちつれ　義椎

我先とひらめ都のまつしられ　子崖
梅檀は葉の陰ひらめ初時分　淡交
桐の葉は呼ぶさきまで初しられ　雲白
とく起し老の寝覚初時分　凡外
西海子と言あるまで やまつ時分　昇左
俗人の幕とるまでまつしられ　一具
ろろ弁を拾ひられ初しられ　天遊
月かくれて雲とぶまつ時分　仙意
行燈の掃除も業て初しられ　芦丸
海山は言もくまくまつきられ　九宝
獺も餌を拾ひのこしまつ時分　田楽

時雨

梅は枝を動るもの時分かな　蕪村
ものは言はれぬ行あるやう　晩童
さまざまの無絃琴のひとり言　白雄
風ふけば木の葉ばかりの言はれぬ　大江丸
はらはらなくひとりぐらしの時分かな　士朗
海より来て時雨て山しられ　青蓑
尺ばかりも山ばかりなる時分かな　吉美
しら丸の子を人をもしら丸　万和
山里の雲は芳野なる一しられ　蹇松
言ふもんとうしられの詩の雲　月居
紫みやしられて詩ばかり栗　雪渕

[illegible]の[illegible]の[illegible]甲[illegible]ある時白[illegible]　蒼軍
[illegible]と[illegible]と[illegible]と時白[illegible]　風朝
[illegible]山[illegible]海あり[illegible]をこゝを時白[illegible]　京池
海[illegible]山[illegible]中[illegible]絵[illegible]しこれ[illegible]　大橋
[illegible]の[illegible]木[illegible]木とする[illegible]道[illegible]　護物
寺[illegible]生[illegible]こゝ[illegible]こゝ[illegible]これ[illegible]　河路
[illegible]仏[illegible]こゝ[illegible]これ[illegible]山の[illegible]　嵐外
[illegible]ゝ[illegible]竹[illegible]こゝ[illegible]時白[illegible]　露白
[illegible]の[illegible]こゝ[illegible]これ[illegible]ゝ[illegible]　雄[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]なる[illegible]ゝ[illegible]こゝ[illegible]　朝陽
[illegible]れて[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]こゝ[illegible]　浜[illegible]

[illegible]れ[illegible]ゝ[illegible]こゝ[illegible]これ[illegible]　朱木
人[illegible]ゝ[illegible]心[illegible]こゝ[illegible]ゝ[illegible]　流芝
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]時白[illegible]西白[illegible]　庚年
[illegible]山[illegible]ゝ[illegible]こゝ[illegible]これ[illegible]　平山
義仲[illegible]ゝ[illegible]文[illegible]れて[illegible]時白[illegible]　梅宝
[illegible]ゝ[illegible]こゝ[illegible]これ[illegible]ゝ[illegible]竹の[illegible]　由梨
[illegible]風[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]尾[illegible]　慈年
[illegible]れ[illegible]こゝ[illegible]これ[illegible]ゝ[illegible]柿[illegible]　一具
[illegible]越て[illegible]猫の[illegible]ゝ[illegible]これ[illegible]　而后
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]綱[illegible]こゝ[illegible]これ[illegible]　白[illegible]
午[illegible]屋の白[illegible]ゝ[illegible]時白[illegible]　卓郎

月庭　松什　山外　西馬　影左　見外　其山　潛蕉　桐古　山方　等戦

冬雨

冬

初霜

志ぐるや入りたちうつと　松蕉　木　成ぢめ　大鵬　巣より巣へ移る和時の時雨哉　蕉門　柴の戸に水もしもと思ひ出る　芭蕉　冥々　出居ちるの雨なり　桔の白　山家めく犬は焚やり雨の日　蕉雄　推の雨はあてにならぬ冬の雨　月庭　行くれと空心なりて山の日の　惟孝　きつ雨のうれさ年ゝれ　芋洗　一旭　初雪やそもそも笠はなく　蕉雨　大柳

霜

初霜ちよせつけもせぬ扉かな　風雨
きつ霜や仕付のきみし麦畑　李池
きつ霜や稲結つけしあゝ起し　馬宣
初霜のおくやみそんの石のこし　好甫
初霜や昼寝つゝく鶏の毛あり　源花
初霜や呂兵つゝく鶏の鶏　庭鳥
きつ霜の豆のこゝ打ぬ色　樓童
霜ぬ霜や山寺ぬ地ちつゝ　保吉
ねく霜の湯行所のそゝ小　巢水
本つけとつゝ霜豆の葉小　芭蕉
霜の中ちつゝ家色ゝ

霜ゝつ抵のひゝき中所の霜　風洞
ひつち煙中見ぬそゝけの霜　月庵
霜和ぬ和ぬ啄木ぬ白ゝせき　雨夫
所月や霜よちゝめく河原鶴　桐古
眼光ぬ霜ちゝ霜ちゝ赤の表ぬ小　馬明
霜ちゝ芦ちゝ芦ちゝ霜ぬ巣ぬ霜小　蛇雲
ちゝく芦ちゝ抵ぬ和ぬ霜　梅宝
鶴の夢ぬ霜ぬ行ゝ和ぬ霜の中足　仙皮
大霜の流ゝ所のちやし小　一具
月ぬゝく所ぬ小霜のゝ　ちゝ義
手ちゝちゝ白ちゝ見ぬ霜の霜　等載

霜夜　霜れわたる夜の月の霜冴ぬ
ゆくとも舟の漕ぐ霜哉
漕ぎ出の霜の音の霜哉
霜の月　霜の音の霜哉
俳句を詠ん書き目を霜よ
つ霜の月の霜哉
石南花を拾ひ上げ霜ぬ
物あり霜の霜ぬ
つつみ土龍の穴や霜ぬ
山畑や山の霜ぬ
宮角や霜ぬ

一具　犯像
花守　交
松外
乙良
花朝
大梅
雲白
九起
晩翠
西五

初氷　氷ぬ氷ぬ氷ぬ
陽炎や氷
奥市や笠三葉四葉の氷
氷ぬ氷ぬ書ぬ氷
氷ぬ氷ぬ氷ぬ
初氷の引の手隙の形
山の神の氷ぬ
氷ぬ氷ぬ氷ぬ
本の葉の氷の氷の下流
氷ぬ氷ぬ氷ぬ

岳路
外六
遠流
若人
庚年
雲白
由梅
甚村
半翠
完来
雲表

結氷もけさ吉野川の氷の花　風湖
とれ合て梱口の氷うすきかな　蕉軌
そゝ我うけこゝろ曙理の氣　一具
水底の生く氷や鰍の吉　阜池
蒼浪は水と一ところ小魚かな　紫山
笹一葉浮けて氷る水鉢　林曹
水瓶も氷さ和や氣あ也　阜郎
ふるさ巻中ふるく氷る流れ　尼外
紙ぶすの蓑ふるふる氷る瓶　耕雪
鍬の土ふるし行ふるふる　九超
氷ちゝあ家ふ中や池よ物の世　等哉

薄氷　一兆
鈴川や枯よ吉ふふ氷
ふふふと柄杓さふふす氷　定任
浮ふふ白や小笹の薄氷　車杜
ふふ月ふふ氷ふふ氷　淡蒼
ふ日は入ふふや桶の薄氷　祖仁

厚氷　成美
柄杓吹ふふあふふ厚ふふ
ふふふふふ重ふふ厚ふ　柿居
柄の薄ふふふふふ厚氷　蕉軌
ふふふふふふふ厚氷　五雲
月見ふふふふふ厚ふふ　丁知
鈴明ふ土橋の下や厚氷　蕉山

氷柱　ひさしにたれこめる竹垣のつらゝ哉　入日さすらん氷柱哉　蓼太
屋ゝ人もとる氷柱哉　寒松
ちりけのつらゝ哉　白雨
淀緒の町中を行つらゝ哉　淡史
鈴時や夏とつらゝの新らし　風外
ぬきうちをまて地をたゝらん　湖山
早ゝとうけたる枝のつらゝ哉　等栽

鐘氷　山深く二月雪て鐘氷る　南湯
晩の鐘氷るや　湖の上　寸月
川一ツ越て氷るや鐘の声　羅庵

冴

木枕のなりまぬ鐘氷る　李薫
山深し時なくこゝろぼの声　嵐竜
風雪や枯ぬ草もなく氷る　外六
こゝろまよひ冴る和歌の山　万岳
枯草鹿を雑史冴ゆく　悦示
うつ谷の寺て冴さ月の町　風羽
冴る歌や夢をまとまるこゝろ　後物
冴る歌の碧玉和等の和　淡史
月の梅ふるし越す鐘さゆる　梅通
寝ぶちけんて冴る和鐘の声　史叢
三井の鐘長さ世ぬと冴ゆる　宇叢
　　風竜

月次

凍

[illegible]

脛

脛

吹礼や二月はじめの孫を好く　保吉

琴弾も老とかくし去物の孫　外六

掛のまやそふもあき彩ひ子　夢南

掛やさて屠をまもる絹手帽　護物

掛ぬをうくを男ひやもれ小袖　文界

杖ら掛みらき袖をうむ丸　水篠

紙や世をあ戒ぬ　春湖

あうを君ひうれて雲の之　大江丸

徳や取を杖紙をまちあと　伯壺

あうり社水絵の藍ようれう　芦丸

戰を見せあ上て冬ゆる南　冬邪

寒

猫の目に寒竈うえんさ
ぞうちゃのれとまるまるとなる
ちゃのれまたくやみれるの
後手にのうちうめ雪さ
家あうとまくも雪やの陰
ちちのく寒ち近くて雪くの那
拂ふ寺ひつ伝雪さの樊修う
まりふうこうのち稀さ
程いまを茶て雪さうれ
雪きりや蛙河にうりなる
雪さりのふいとちて機家に

暁雪　士朗　樗堂　家英　乙二　芝夷　岱年　風朗　卓池　護物　沙鷗

とのはしもあうこめんゆうて雪さに
雪ちれを色のちまて雪ちう
ちの諫りちまうて雪さうれ
常岩朱に拍本りう雪に
先くのく駅の行寒の雪に
雪のちうちを見このく雪に
領伝の戸に的ちる病気し雪に
起知て雪ちをりのく云ちめ
雪ちを雪てふの雪ちに
ちちあう栄て寒れて雪さに
ちうして雪いう帰りや新世常

朝湖　京郎　竹村　為麻　万大　渓言　甚山　由楚　渓笑　丁知　相湖

初雪

[illegible]　多竹　成方

起きれて寒の早く出でて[illegible]

常盤屋　[illegible]代の[illegible]　秀岱

稲の手ぬ行[illegible]　梅宝

きつ雪の[illegible]をうけや竹の月　蓋村

きつ雪や人の[illegible]　格笠　士朗

きつ雪や[illegible]梅の[illegible]　兼英

初雪や[illegible]　一茶

初雪といつ[illegible]あさ日　月居

きつ雪や[illegible]　沙鷗

きつ雪や[illegible]　護牧

きつ雪や[illegible]　古長義

きつ雪や三の[illegible]　義根

きつ雪と見る[illegible]　[illegible]

とのらもきつ雪[illegible]　淡交

きつ雪や[illegible]　一具

初雪や[illegible]　尺外

初雪や引[illegible]　阜邨

初雪の根[illegible]　成安

きつ雪や[illegible]　蓋丸

きつ雪やけさ[illegible]　掛扇　[illegible]水

きつ雪や人の[illegible]　梅宝

巣を蓑ゝあむ翁重ちなし雪ゝ也　九董
イきなゝふゝ雪の径う新　士朗
考らとそゝふゝ思く雪の笠
ふゝ雪ゝふゝの涙と心ゆく　う彩
雪ゝりゝゆしさ雪のゝ考ひ　芭蕉
遅ゝて松ゝ枝ゝゝゝん雪のゝ　蕉白
ゝう出ゝて枝ゝゝゝゝゝ歌の雪　外六
雪の釣ゝう遅一たゝ殿ゝう釣　十丈
なゝけちく門ゝん雪の孤ゝ　風朗
立除ゝ去ゝゝ凍し雪の袴　西月
ちう術ゝ桐ゝ柳ゝゝ新雪　浜史

雪ゝゝゝゝゝゝ静ゝつの雪　東池
あゝゝゝゝゝゝゝゝ雪ゝたゝむ松　梅宝
変て雪ゝ枝てゝゝゝゝ雪の丈　一風
雪雪ゝ五ゝゝゝゝゝゝ枝通
ゝゝゝゝゝゝゝ雪ゝ海のゝ　宝白
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ八芦ゝ　把儀
ゝゝゝゝゝゝ俤し雪の原　凡外
宮先ゝゝれて明し雪ゝ松　惟宝
ゝゝゝゝゝゝゝゝ海の雪　等載
原汁梅のゝゝゝゝゝゝゝの雪　仏尼
雪降ゝつゝゝゝゝゝゝ　一具

深雪　志賀雪のあまり深きを家ちる
　　高窟ゆゑ人白雲ゆゑ深雪哉　　擁良
野の雪をみるうちの深ゆきかな　　咸亨
降て降てやがて降る深雪かな　　湖
あるうちさ雪の空行深雪かな　　万京
行先の人えてさまる深雪哉　　風朗
鶴の家さて一日居さ一深雪かな　　志白
雪を折竹も寄りて深雪かな　　義雅
ひな詩の長き眼の行深雪哉　　雪水
うつむいて眼をやるあるる深雪かな　　仙志
雪を厨人て来る深雪哉　　万古
　　為山

雪見　おもしやる旅宿の雪見哉　　巣兆
一人て降る雪見哉　　一の雪
戸外の雪見哉　　水竹
旅ゆゑ町くくと雪見哉　　京池
角力取ゆゑ人を等くて雪見哉　　完雄
新しき一つ雪見哉　　江月
相撲とし家毛家一雪見哉　　杜鵑
幾年て幸ひくくる雪見哉　　志行
雪を帝ゆ年て雪見哉　　白雨
出ようくくゆ雪見哉　　西馬
雪見人舟よき姫御の白ひけり　　一具

雪吹　おろせと力抜出す雪の下　蓋村
旅せしも山の時雨吹　雪夫
新宿屋く風呂陽の弩る雪の下　大橋
小雪時ふく雪の竹幾る雪の下　邑湖
おとうと社葉ぬきもぎ雪の下　貞山
今度夫の煙出る雪の下　西馬
一雪に山あらはる雪の月さす下　為山
雪志美茅買ふ新系新そ雪一生　就山
ちりぬて仏見ふ中雪一生　升六
新人を志ぬきもの原の雪　立字

雪九ヶ雪九ヶ雪九ヶ雪九ヶ雪九ヶ　大江九
考社ふ考社ふ考社ふ考社ふ考社ふ　眉白
人食小人食小人食小人食小人食小　碎裁
ちめうちめうちめうちめうちめう　祖仁
李陵の相ちるる一中雪九ヶ雪九ヶ　波岡
見ち来て大きうかりの雪ことに　布舟
呼ちまし系も雪一ヶ雪ちし　一具
義の竹中年ときの雪　松緑
塩ちうく生きうき雪ちし　雪載
雪礫　雪新中七つの年を分の雪し　水雄
ちうの時しや竹雪　孫

後家と出しあるのれそう　雪　孫　小園
雪打やうちまぬ碁を終る人　あとあ
板塀ふる雪の孫やまま　芋子　風毛
雪佛　雪を打ぬ碁を終る人　佛　青葉
いろはのうたの人はゆのうて雪をかぶる　文雪
見てもうつくしいうつくしゆき　佛　一具
雪ふる子佛の智恵和雪佛　三岳
ふる雪をいとしんだ新やゆき佛　柄宝
雪遠广　雪を見て　佛ゆきを佛　雅家
出家かけてあるかけて佛を雪を見　雪丈
笠ぬぎ一形る出家うを雪　雪爾

雪車　雪を車のうんぬきてもの　高浜虚子
雪を乗り　雪をうるかるかるかる里の父　三浦人
ぬるるやかるかる里の神道　旬光
雪の雪の人つの雪車　九起
雪を見ぬ中をの人を海をうん　大鵬
かるまるのせめ雪車のうこんぬ　由紀
雪酒　雪酒の雪をうんて雪をうる　雅家
雪酒のうの人をかるる雪酒　湧水
雪酒やうるるるるるるるる　紀古
雪羊　雪羊を一夜ぬ祝うるん　升公
雪羊やとうるるる雪ん　万裳

綱貫

[illegible]

つゆ霜や草離の紅はけの長らぬ　雁岩

埼うらや橋のみちる星光る　白蛾

風うらさ里まゝ日の明きぬ　春潮

橋のあるゝやゆく　日和　芳洞

橋や安子うるけはるきあき　風朔

橋や高家の女おくらく　小園

橋ゆ人殺れたかりけせ　咲丸

橋や絵ゆうつるの歩行方　素屋

橋ゆれて小唄のあれ寄り　遠流

霞

無の雲は水よりさなるみえれぶ　夢太

みえゝゝや鼻の前うむ　育犬　保吉

殺らゝやゝゝれうめて冬一日　芝亮

絵雲の松おりしをみえれぶ　成美

やしゝさ見せて秋ゝ霞ぶ　一具

松の雲ゝ消らゝゝみえれぶ　紫年

みえゝゝや歩賛雨やゝ磨源　一甫

みえゝゝや上風のつうぬ　任者　水竹

みえゝゝや橋ゝのうゝ丸ゝ磨　秋吉

雲あるれ源法ゝ死ゝ里ゝ　晩壺

冬　雲ゝ死ゝ　雲ゝゝ　橋のうゝ　第文

玉あられ　士朗
こがらしとのみ　乙一
ねこやなぎ　四人
一日人の枝よりたれる　井眉
著物をかしあうつゝ　沙鈴
見ゆるなり　渓笑
あれの宮　京池
野の末　蓋机
ものあられ　宮白
あるじめて　会周
鍋中盈　等載

冬

搔

清水ほとりあるいてやまあれ　成家
あるあれも枯れ　升六
野の竹に田人　子里
雪ふる　風湖
ひとまの雨　清民
枯垣　石外
茨咲日和　源京
冬のひと　一具
雪ふる　山外
親村の子　角
雪ふる　由堂

北窓塞　月化
冬　籠　慈光
蛍　夢太
蜘　晩春
冬籠　白雄
砌　士朗
敷　月居

蒼帆
相白
梅宮
中聖
冬籠　法史
冬白
風朗
渓高
蒼水
海苔

炉開

炉ひらきや雪の庭のあられ酒　西馬

炉をかこつて友ひとりえ一心れ　等載

宵の白よりの時こ炉を開きそう　蕉村

炉開や寒より西を志賀おろし　探勝

ろひらきや寒の毛ぬ取の縄　一具

ろひらきや柳を来き新ろし　雄嶽

炉開くし行炉ぬくく思ひそう　素因

炉ひらきや柳ぬ掃ぬらんし　如樵

炉ひらきや庭の実れ小柳の葉　一滅

炉ひらきや小柳下ぬ見ぬらん　由梶

口切

口きりや尺丈ぬ竹ぬ今年ぬき　蕉村

口きりや雲ぬ生海苔ぬ乱れ　尺丈

口きりや毛ぬ付蕉嗽の柿　芝長

口きりや蕉ぬ蕉ぬ茶ぬ　立字

口切や山ぬ一ぬ一ぬ　米月

口切やうぬ桃のおと　雄力

裙ぬ来て乾ぬ生き火桶ぬ　一具

ようくと縄のうぬ火桶ぬ　蕉村

人来ぬと火桶を吹ぬ夕アぬ　一茅

ひとまぬ一ぬ火桶ぬ　三汀人

こゝの凄し火桶よりみ魚の骨　大梅
常人と住みてまさる火桶かな　鳳朗
猫に来て座りし火桶を避けりけり　嘉白
ものしうるも夢と抱く火桶かな　梅室
良よせる火桶をさめて鏡の夢　亘清
我のけも老ぬ火桶の抱へかり　穎左
座敷をもして並ぬく火桶かな　然年

桐火桶

桐火桶紅梅はのあしてあり　孝淵
淋しさや今も持ける桐火桶　鳳外
手に於ても夢の抱くぞ桐火桶　鳳篇
滝打よ宿の軒もあり桐火桶　紐心
座敷もんに雪ちる縁や桐火桶　一具

火鉢

いろく於袖もる見ゆる火鉢かな　芝左
何よりも僥幸うれし大火鉢　碩布
寒らりや火鉢抑会出合　梅室
持出して座の光りたる火鉢かな　一旭
文字ふく火鉢に寄てをしく　双烏
とりあえて抱き寄る火鉢かな　我竟
手に於ても年を積みて火鉢かな　布山
寄やもき道あり翁火鉢　乙良

巨燵

人老て巨燵にあまる膝のまゝ　白雄
持をつし男於行来る巨燵かな　士朗

[illegible]　嵐外
[illegible]　梅宝
[illegible]　宮池
[illegible]　一具
[illegible]　欽哉
[illegible]　古喜
[illegible]　月芳
[illegible]　松濤
[illegible]　柳壺
[illegible]　双鳥
[illegible]　為山

置巨燵　唐崎の[illegible]置巨燵　雄[illegible]
引[illegible]自然置巨燵　[illegible]白
[illegible]置[illegible]　[illegible]文
[illegible]置[illegible]　山[illegible]
[illegible]置[illegible]　由[illegible]
[illegible]置[illegible]　[illegible]
[illegible]置[illegible]　[illegible]
[illegible]置[illegible]　白雄
[illegible]置[illegible]　[illegible]
[illegible]置[illegible]　[illegible]
[illegible]置[illegible]　[illegible]

埋火

[illegible]

風炉裏

[illegible]

湯婆

[illegible]

食

[illegible]

篠の風絶て病へし人ぞ悲
きなやみ山ぶきの中そうけてと
古はよ一枝ちる夫ふとん うれ
ばむとて白ぎあらてふとん
よ立のかしてはしふとん うれ
黄菊は紙ぬんふとん うる
出ぶきはとうふとん ふとん
山ちやしふとん ふとん
うけ蒔て水戸のぶせるふとん 蕗丈
屋敷を中くに庚きふとん 蕗山
ぬうのまちぶとと思ふ蒲団 荻文

蕗丈
蕗山
芭村
几董
一茶
護物
風朗
牛地
淡丈
牛山
荻文

蒲団

紙衣

ぶとと毎の物のふとん 一具
ふとん ふとんの中ぶと我世ぬ 由蕗
舟宮のくさ押也ふとん 西后
ぬみ日はやふとん 紙衣ぶ 芭蕉
泊ぶ嵐ふとん 紙衣ぶ 四人
扇ふとふちふとん 紙衣ぶ 護物
ふとふとふと 紙衣ぬ 物宝
蓋られて ふとん 紙衣ぶ 碓氷
深くさとふとん 紙衣ぶ 唐白
出文度の紙衣ぶ 机ぬ 杉什
先扇へけて舟出ふ 紙衣ぶ 把像

かと神をしめして物出撰衣うれ　高窓
我袖の赤なるまめ成衣ぶ　為山

綿入

綿入れ嵯峨巾よあてる柱うれ　杉什
ちるのやまを云ちる　小竹　寸侍
ちる入やや尼ゥ高宝も　撥為　芦丸

頭巾

町ちるきいてわ法巾ハ小見台岩　茗村
法巾見て居きき屋し　ちれ菴　春亜
朱在ちるちる人見る法巾うれ　大山丸
人心ちるる法巾れ　夢南
形ちるる大きく吼ぬ法巾れ　風湖
考ちるとんちゆきを法巾ぶ　卓池

足袋

拭ちるきむ年ロちるき法巾ぶ　卓郎
足ぬちるる笑ちと墓ぬ法巾れ　抱像
つを出たるひよかちる法巾ちる　夷則
見ちるもきたるのき法巾ぶ　心阿
生ちるひの足袋ちたるき法巾ぶ　茗村
京ぬ地をちれてちるわ紺の足袋　五明
古足袋やあるを拭ちるき　寥杉
ちれ足袋めてありちる紺の上　小園
ちるて居て足袋ちく男れ　万古
舟を出て足袋冥山涙の町ぶ　一具
足袋かめてきちくやちるの上　昔見

炭

炭を取や炭を焼く者　蒼太
炭かまとも炭を消る物　嘉海
夕雪や炭こをりしる　北枝
炭やといふ雪小松も交る　士朗
炭を雪立る年のくれ　宋英
炭は火や　宗木
炭は火をもつ数のつもるあの通り　一茶
炭は火をもつ数の絶やもつ足炭　芭蕉
時さるる人の絶やもつ足炭　卓池
寒の薪や炭挽袖を搾はさん　義推
仮ぶしてはしゐやもつ足炭　春白
病る夕は炭ありて沸き移炭ぶ　為丸

炭や炭や壺不沸き付けとう云　梅室
縁へ出て仮ぶるうちやもつ足炭　一具
消炭や消ぬ山ぶてもの足らん　徐年
すまたたのるうちやもつ足炭　國義
炭をわる音ふるさすぶ硬うれ　号阿
炭の香や古く書てんゆるあや釜　成美
山中や炭をもけるぶ一ッ　凡外
翌日ぶ炭の用意ぶ　由梦
当朝ぶ炭のまさく焼炭のもり　等栽

炭俵

口明て消しうなりぬすみ俵　道隣
ひめれいふをきしめて炭俵　成美

炭賣　炭賣より続て出せるうちたかとうに炭俵　烏津
　　炭賣より続て出せるをんなも　甚村
　　炭賣て外あき里く廣りうり　宗來
　　炭賣のひとりてかりけり　烏谷
　　炭賣はきさきはたこ口れ　松宜

炭竈　炭賣の掃てもの約を庭のあ　一具
　　炭竈やはりてめれ書うら　白雄
　　炭竈とけうとく冬しは日ほ　芝夷
　　炭竈や一ト二ッはタうこん　蓼孔
　　すきうすれ書く書ぬ里はは犬　庚年
　　炭うあれのはうる一ッうう　省吾

炭の角をさしてうたうに秋の鶴　梅宝
炭かすの箭を高まるうりほ　等栽
炭圃つく白うくとりを書けは　什六
秋はあまる心はたたんほ　寸翠
屋ううの秋まるあきたとんか　杜月
をのけは徒て秋ふう一揚の音　白雄
揚の新蔵の揚のうう　樗堂
揚樊て義経殿を墨屋ふれ　巣兆
却てもし拾人起を揚火ほ　卓池
揚はをたのうう秋くふれ　由契
孫出せとすある揚の池をほ　梅宝

禁裏さまの御のこと四ていまされ　卓郎
門西流の自まん咄や猶の内　義雄
まも見えもおくなく禁裏さまが　風朗
宗すると見えもらち約束猶の人　春白
きりくやや最文てきある猶社長　布山
伐口社まもされ色の猶末れ　春年
高聖さ四方はきさまが　波田
育ると家咄ぬること社やと　未見
まるれるる要拾さ立猶大が　石外
栗餅のいけ出てある猶大れ　与外
祖板さまるけるるけ　等載

冬日

冬社のさまや魂取庵の猫　摂星
鳴鳴を力さ冬社八月が　成美
冬社りや月は振舞あるふ家　春表
冬のまさまきく社ひとが　風朗
雪てるる町さまや冬は和　卓池
松竹さませと鶴きさ冬日が　嵐外
めてらるさまを短きさ冬日和　乙良

冬夜

冬の義市鶴の春を吟俺る　白雄
冬社秋や刹刀研し　低写　春亜
冬のよや生業きる孫氏　士朗

冬月

冬ながら春やかすみてあたらしき　梅宮
冬の草やや浅茅なる磯の竹　後物
ふるさとや冬ながらも雪ふる里　一具
冬ながら草のもとゝ草ゝ冬ゝ　左琴
冬の草やや小用ふる雪のの　由楚
冬ながら月つゝまぬ心さゝもの　冥交
冬のゝの月ちひさ一のうゝ　紙書
楳やゝさゝくゝと冬ながら　保吉
美しう年ふれそ冬の月　恒丸
さゝくゝ深あく冬やゝ冬の月　士朔
ふるさとの小邪物の冬やゝ冬ながら　[illegible]

鶯入れ立ち寄り町ゆくや冬の月　[illegible]
冬ながら月ふるい冬ゝ出て行る　千雀
たゝつけの冬ゝ大家の冬の月　吉白
ものを出の法ゝやゝ冬の月　風朔
ひとりくゝてゝし冬ながら月　林曹
夏ながら冬の分ゝ冬の月　句清
昨風て池の小ゝし冬ながら月　紀袋
老行て法ゝたゝゝ冬の月　由楚
法ゝながゝ冬ながら月　成方
冬ながら冬ゝ冬ゝ里やゝ冬の月　未延
冬ゝ冬ゝ冬ゝ冬ゝ冬の月　[illegible]

柘植

山を越て人々別れて柘植より　茗村
犬蓼村にくるしき柘植に　曉臺
人面の花のかをりの柘植哉　蓼太
むつまじう住やわらぎの一ツ家　樗堂
酒のにほひや柘植の一里塚　蕉三
為もなくふる雨の柘植に　蕉雨
四方うつる日はまこうく柘植に　寒松
九月のうらあきまつりの柘植　月居
夕月やうぶ雨とあるを人のうた　李洞
行雲はうつる俤き柘植に　蕉風
明を柘植ぬ何をなにとて人面の　一具

菜たねやけや柘植の末に二三枚　由聖
稲妻はけふ柘植にまつかぜ　洗笑
大池を中に見る柘植に　俊之
かるく京くもて雲行柘植哉　為山
深く菊の蕾まし柘植に　其山
かぶくて池の底まで柘植に　可大
杉山を出て見ぬくき柘植に　白弦
笠書山先うとうる柘植に　卓郎
垣もなく庭うつる直ち柘植哉　山方
小坊主の人と柘植行　沙弥
前はまこうの柘植に　波国

[illegible]麦もまて川原の柏壁ゆる　九起
よいみちのつちて寒きまる柏壁ゆ　等載
我のけをふりくるる柏壁ゆ　說苑
くくくくの鶴もまけし是二本　乙二
くくくくの壁や遠行客未絡麦　の樂
くくくくの壁や[illegible]二將　淡交
くくくくの壁や犬も近ふる　盃　瓢　文里

朽野

くくくくの壁や細き流也丸木橋　越表
人うけや寒て人小き冬壁　巢也
冬野　冬野の吟唐けふる冬壁ゆ　外六
ぬくくとりはけ[illegible]冬壁ゆ　武陵

冬野より月見て一人ゆ　松秀
みくくや燈ん挑一人ゆ　祖仁
冬　山　冬野とかくなくさまく冬野山　月化
かくなくまく主見あ山和冬の山　悠多
和冬風の中冬寒ふ冬野の山　玉山
月冬風の中冬寒ふ冬野山　夢外
裸冬ふ冬月あ和冬の山　芋河
まくこふのかくまふ冬の山　一甫
あのるきふ入おふ和冬の山　魯心
尺冬ふ冬山の鳴を鳴ふ　也楽
冬寒ふ寒く滝て山鳴る　瓦村

[illegible]　　稍月
[illegible]　　[illegible]外
[illegible]　　[illegible]

冬田

[illegible]の經[illegible]と[illegible]冬田つら
[illegible]　　三津人
[illegible]冬田[illegible]　　護物
[illegible]和あつまる冬田[illegible]　　[illegible]
[illegible]と松[illegible]冬田[illegible]
[illegible]　　[illegible]
[illegible]冬田[illegible]　　[illegible]月
[illegible]冬[illegible]　　[illegible]
[illegible]冬田[illegible]　　[illegible]
[illegible]冬[illegible]　　[illegible]
[illegible]冬川[illegible]　　[illegible]
[illegible]冬川や竹のあく[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　[illegible]
[illegible]冬川[illegible]　　文[illegible]

冬川

[illegible]水のあり冬[illegible]川　　[illegible]
[illegible]踏て[illegible]岸[illegible]山の月　　松[illegible]
冬海　　[illegible]の[illegible]冬の海　　[illegible]
[illegible]月[illegible]ら淋しさよ山の海　　雅[illegible]
[illegible]冬[illegible]海　　三恵女
[illegible]海[illegible]冬の[illegible]　　[illegible]
十一月　　年[illegible]十一月や小田の[illegible]　　晩翠
[illegible]里や十一月[illegible]　　[illegible]
十一月　松[illegible]二月[illegible]　　[illegible]
霜月　　[illegible]月や[illegible]の[illegible]月和　　[illegible]
[illegible]月の[illegible]五日[illegible]　　[illegible]

雲母もこゝにまゝかれ栗ぶ　柄宝
年の末を雲母の小庵に　月庵
雲母や柿の五本枯屋敷　風外
雲母や麦ばたの一の五歩三歩　山背
雲母や常行人は西うなる　由聖
年年の絶もうゝく足あるのは　蓼太
松ゝも雲うゝよりあるの秋　玉麦
ゆくあるゝ中よりあるのうけれ　月居
籾雲なる海を歩まるゝ　寿洲
黄しうるゝ冷うゝ春ゝ　太柄
多ゝ餅をまいてゝゝ　雄岳

冬至

黄ゝうゝ年のつゝ春ゝ　呂史
男ゝ後ゝ春ゝ　由聖
いゝくゝ遅ゝ年を磨ゝ　白雄
花の時冥をなゝを磨ゝ　吉篇
ゝ年を新ゝ磨ゝ　文路
黄ゝ枯なゝを凡せゝ磨ゝ　樗山
子を伸ゝゝまいゝを磨ゝ　ゝゝ
ゝゝ樗ゝ　京邸

数冥

数冥や ひとゝ咲て扇ゝ　蓼太
数おきゝ梅の花ゝ後ゝ　一具
多ゝ数冥淋し笑顔ゝ　朱巨

数置物 数置物いろいろの迹を表るけちまを張のうへ 松葉 坦々

袴具 袴具の祝ゝなるゝ法のうへ 菓肴

袴具の角を短冊をとれけを 一具

袴具の角を幸ひ座る板のもと 祝口

ちゝまつる物いつゝてる角のうへ 益光

袴具の赤彩色一き彩色ゝ 方比

袴具の幼ちゝつる威儀の眉 威当め

ちゝまを活る意けの被物 板宮

いのゝちゝ物のうるのきうつき物 迹流

被物 坦々

ちゝ出一ゝを小理寄りの入き物 落山

子祭 子祭の子鍋とゝする烏帽子祝 菓肴

子祭の神代の物形を 月兵

子祭とひゝつる彩のなき竹 金迹

子燈心 ちゝ出きまを寄生長の物 威当め

兄弟ちゝ人子一る燈心 色表

ちゝ数を結て男の子物 雑穀

男ちけい彩の意比る物 護物

二度ゝ出て夫婦の男ゝの子物 旬光

彩磨男ゝの子物ちゝ物 千号

一具

御火焼

御火焼や霜うつくしき京の町　蕪村

御火焼や星深まりて雪のふる　碩志

御火焼まうでき女もまじる焚火哉　霞耕

御火焼や続く東山星月夜　鳳朗

御火焼の夜を吹やみし松の声　波同

御火焼まづ先消へけり賽銭哉　会て

御火焼やひとつ夜かつ松の露　本宮

吹革祭

里ぶりて鞴の飾鍛冶屋かな　一茶

殿様の鍛冶も打吹革祭哉　瑞石

鞍結ふて吹革祭の掃除哉　逸流

小屋風や吹革祭は鍛冶の家　蒼山

空也忌

空也忌は松につくきぬ柳かな　七翠

空也忌や二つ三つより瓢出し　麦宇

空也忌やちらちらけふる鍋の霜　菜静

空也忌や女子も出て堂の角　一具

鉢叩

外様の火ありかすれ声鉢たゝき　暁台

川添や其屋敷まで鉢たゝき　白雄

跡先に子連て出たり甚え丸　大江丸

南無月夜南無と雪時雨鉢叩　士朗

淋しさを祖徒続くて鉢たゝき　樗堂

鉢たゝきあてもあるかな来いやうな　蒼表

世をわたるも拍子のあり鉢叩　葦三

蒼乳
風洲
由紀
而后
一具
為山
烏石
梅通
白雄
色洲

大師講

大師講
大師講は毎年五月十五日
に行はれ大師講
一具
九董
二柳

神樂

神樂は毎年五月十五日
に行はれ神楽の
二十二寸程なる
海あれより動もとゝ
ちをきくとゝ
神楽神あや
神楽神手や
とゝかりを
あるも
屋をとゝ
車をけき
家をふる

羽人
はる
一具
九董
二柳
家外
風洲
霞象
丁知
由紀
柳宝

里神楽

廿日ふき隣りは井戸や里神楽　月化

里神楽見しらぬ里もありけり　七箕

古代もよ妻もよ里神楽　月居

かゝる夜の雪や里神楽　一具

頼みなき飯なるへしや里神楽　一幽

終らけり桜もあらも里神楽　馬とめ

月影とも梅の咲出り里神楽　祇口

誰か袖のこゝんや白く里神楽　嵐山

芝居
顔見世

顔見世や既に浮世の飯時分　蕪村

顔見世や人に気おくれ頬かむり　蓼太

顔見世や先慶ひ梅が香り　蒿三

顔見世ちかめ花咲さかり　雄岐

顔見世や嫁の縁の気さう　浮萍

納豆

納豆や打連て友ひとり　年心

きざみこむ桶の音や納豆汁　月居

草庵に文見てあそて納豆汁　蕉乾

拵て納豆かな　湖明

好物あるゝの納豆の手延かな　亀白

くもり夜の暗さやあり納豆汁　逸淵

樋の湯気煮の湯気や納豆汁　梅室

小屏風に寄りて居や納豆汁　石外

風さそふ戸や洗ひかり納豆汁　宗子

出し舟うどの新芋 納豆汁 清蕗
きくらの雪を紙包中 納豆汁 乙國
庵の名も見えをり 納豆汁 年洋
いとをかしき紙の紙包なれ 田螺
風呂吹 風呂ふきや 蕗の中より一人ぶり 月居
風呂ふきや新しきうけうるる 絲瓜 祖仁
風呂ふきや 蕗の中より俄 等載
風呂ふきや人を恋ひ陸よこし 田螺
干菜 たくさんに干菜の干なり 蓼太
りんごの汁のこるまで干なり 好白
牛蒡屋に干菜ぶら下る 長城

つゝ一茎に留る細し 佛の灯 卓池
杉風ふけし一ゝ雪 約干菜 遠流
最上風のふるゝ干なり 餘力
浅漬 海つけの蕗より遠く冥れり 蓼太
流さるゝ海つけそく白し 越夫
海漬の味も近江の出居 田螺
蕎麦湯 鄙のこゝろ蕎麦湯 蕗村
とくとく心蕎麦湯 外二
人ぶり取る蕎麦湯 永文
貝焼 貝焼や 長谷の海の見 也翠
貝焼や 牡蠣ひらく夕日和 嵐竜

鶏卵酒

よいすのく[illegible]を壺し玉子酒十丈
所取れたる[illegible]井眉
老とりすめてさ名之酒文路
生すゝ却のひ結たる酒角村
たまゝ酒売る嵐り引せる波田
鶏卵酒会[illegible]大笑
生姜酒

生姜酒字酒の粉中老る白雄
酒を出し酒を物和生姜酒菓兆
旅角めく粉中和生姜酒金枝
生姜酒ゝ鶏卵酒けり辛松
絵うきさ[illegible]て生姜酒逸流

藥喰

麦和子は病[illegible]菓茶茨村
下紙等す軒きく菓ゝ蓼太
菓ゝ却ゝ[illegible]ゝ菓ゝ几董
俳句を井をあ[illegible]茶屋菓
子別の[illegible]ゝ菓茶主厚
菓茶今も無梅も町つき大梅
稽文字は呼物集ゝ茶茶梅宝
うきゝ一りま[illegible]菓ゝ成寿
堂ゝ却俳[illegible]ゝ茶屋清高
よいゝも[illegible]茶茶荘定
酒人の服を[illegible]菓茶就古

師走

百姓の杉戸顔行師走かな　暁臺

杉風は世にうとさとく師走かな　蓼太

ゑ仙にたまる師走の埃かな　几董

勤まるものや師走はよそのの宿　也篤

師走めく文や米銭斗酒の外　五兵

艶やくの座は枕に師走かな　三津人

隣裏を見て居て梅の師走かな　嘗三

人ごころ牛に鞭うつ師走かな　梅室

人の町に付て御きて銭も師走かな　淡史

静は時に追れて師走かな　兄於

師走めく庵や飲かゝり状使　乙良

臘八

小坊主に当せしかる師走かな　芹舎

梅宮ふて居所よかぬ師走かな　杜彎

無き持つ人のよそも師走かな　乙国

雪一度消て師走は月夜かな　鉄年

臘八や何も見えきる鉢人まり　菜史

臘八や鉢風呂出る人や誰　月居

臘八やうつむいて叶ふの声　迷湖

臘八や生壁ひやし針も石　鵬居

臘八や砂石掃て庵掃除　常阿

臘八や心きよまりて鐘の雲　為よ女

臘八や今日も薪に裏は山　一具

葬始

ふくさの用ゆるもてるもの　三法人
仏前もてうくなりぬる片先　巻表
ゆもめ先四折り敷まる　巻山
きうれ折りあり伸てるりあ　号此
紙の折挑て通るやるもあ　松秀
本年を四を他らるとはめ　一具
ふ法くと紙のるもは仏名　成美
ゆるも和りもあるなり仏名を　知則
本社をうを時四を仏名　あ
仏名和尚るを寿を居の寿　号阿
仏名和尚をうき紙　一具

御佛名

寒入

まの風も水分をのの　巻表
を紙まをを乾を乾の入　蕾三
法のるを風るやの入　寸出
ふをく背を凡通を板や主の入　法文
家蕪を精進をやをの　陽明
拍蕪の雪をあを氏を北の　京池
取水汲をるを海や主の入　山方
汲流を魚のるを中主の入　あ
寒中　を主て凡を巻を結うを中　素架
汲刺をかをぬるのを北中　一具
口をるく柳の結を主の中　由楚

寒垢離　寒垢離経を誦する　茲村
[illegible]　年心
[illegible]　老淵
[illegible]　淡交
[illegible]　亘来
[illegible]　尺文
[illegible]　也為
[illegible]　居
[illegible]　白
[illegible]　文叔
[illegible]　万比

寒念佛　寒の中の念佛　蕪太
[illegible]　存義
[illegible]　完来
[illegible]　芭蕉
[illegible]　白
[illegible]　一具
[illegible]　荘文
[illegible]　後物
[illegible]　号河
[illegible]　号栽
[illegible]　成ち

寒水　[illegible]

寒椿　[illegible]

寒紅　[illegible]

寒見舞　[illegible]

寒空　[illegible]

寒月　[illegible]

寒月や垣さへもたぬ庵ねまる　梅室

寒月や行燈なしの次の奥　德之

寒月やよれまがりたる割の壁　葉條

寒月に家は白けれ山のかり　幻芝

寒月や角照らして金堂　蒼山

寒雨

露ほどもふりしかしき寒の雨　白雄

簑猫の背分けしぬ寒の雨　長翠

草むらの雉子あらや寒の雨　渡物

雉子ある竹林まばらや寒の雨　呂川

寒の雨あかつきのころ降りけり　德之

鶴一羽田に居かへて寒の雨　惟草

札納

鳥は巣にひく夕ぐれや札納　重厚

いつまでも人の名あれ札納　亀國

立枯し楠のうつろや札納　蓬宇

古暦

古のうくるもあれまゝらんて古暦　長翠

古暦見ても捨つの日もてさき　完来

年よれた子供もちなし古暦　まよめ

旅へ出て覚えなきさん古暦　紫金

今更におもひのこしたり古暦　蒼山

衣配

心あり掛けて起しや衣くばり　三津人

うれしさを掛けて掛けし衣配　縣山

居まはりもてまのきぬ衣配　一具

煤掃

衣配り済して長き春之ゆふ　色淵
衣ふるひのつゝしみの日あり　面白
梅ゝ香もたゝみ出ぬ衣ふるひ　足外
あつらへの男ふる袴や衣ふるひ　乙良
返す行方は芋のうゝや衣配　由契
煤掃て雪行宵は戸にこの丸　七翠
ふるふるや和尚ゝ行ふるゝ　士朔
すゝ掃や禁火の日のゆゝしく　成美
山和尚ふるゝ掃家はあさのや　寿淵
ふるゝ掃や蔵ゝ始まるやうな　白坊
ふるゝ掃て休て常の掃除ぶり　風朔

時のうゝ見新和尚の煤くゝり　然年
庫裏は煤筆はまたのゝけ足　卓池
すゝ掃は寺和尚小家も日一ゝ　影尤
めくいり和尚ゝらひ出て煤掃　而后
ふゝ掃ゝふる波ゝ黒ゝ　由契
庭人のゝ人のくゝ中煤ゝ　蓬宇
黒ゝつゝもの独ゝ煤ゝ　波同
すゝ掃て世ゝ忘れる宵寂ぶ　塞丸
煤ひゝふゝて二日の煤ゝ　成也
也旅ゝ新ゝ煤ゝ　九華
すゝ掃てけゝるむの日暮ゝ　柳宗

節季候　梶久うまうまうたをうたひ若屋は　琴太
琴うまうまうたをうたひ若屋は　一琴
せきはいとあのあの野上人もあり　成美
若屋はやかもとあるを煙て　蓼机
若屋はうまうまうたをうたひ　布庵
せきはいのつうれもうたをうたひ　庚年
せきはいはきもやーあるあるあり　百丸
若屋はやせーき町をかるあり　多河
若屋はやつうを毎年の義きき　蓼山
若屋はもうるるを梶の年雑り　由蓼
陣屋の分うまうまはやはやはやは　一具

婆等いつうをうたひ行婆等り　木洒
婆等はうまうまはいはうはし　柴金
見るはやはやせきはうまし婆等り　色江
年木　はうまうはやはやはやはやはうはう　芭村
はうまうまはやはやはうはうはうはう　恒丸
年木はうはうはうはうはうはう　栗兆
はうはうはうはうはうはうはうはう　完木
年木はうはうはうはうはうはうはう　洗文
はうはうはうはうはうはうはうはう　梅文
はうはうはうはうはうはうはうはう　多多
はうはうはうはうはうはうはうはう　杜蓼

年用意

年忘

年市

節分

[illegible]

格挿

[illegible]

豆もち

[illegible]

巳拂

[illegible]

[illegible]　右紙
[illegible]　一袋
[illegible]　一具
[illegible]　菅三
[illegible]　成ち
[illegible]　茶粥
[illegible]　小蕎
[illegible]　麦あり
[illegible]　一具
[illegible]　芋売
[illegible]　月居

年内立春　師走なりけるしの月

[illegible]　成ち
[illegible]　茶粥
[illegible]　小蕎
[illegible]　麦あり
[illegible]　一具
[illegible]　芋売
[illegible]　月居

餅搗

[illegible]　西月
[illegible]　麦あり
[illegible]　田風
[illegible]　黄山
[illegible]　影右
[illegible]　氷亜
[illegible]　笑市
[illegible]　一具
[illegible]　中巻
[illegible]　二丘
[illegible]　梅宝

餅延　きかりし時より清し餅むろ　蓼太
餅花　雲つめて雲とかくれぬ餅むろ　奇洞
四方角のやうに歩行やもち芭　鵬雀
梅さくもせぬる山家の餅むろ　宮白
小とものの所てあるや餅むろ　梅笠
面ひとつにかくれ歳をや餅むろ　影た
菓子屋は焼ふくや餅むろ　あゑ
もちもの為うけてもちあるれ　一茶
もちもやつんて拵ちもなし　大鵬
もちもやもわるくて盆の上　糸水
梅便

掛乞　もちもやかつてそ春ら枝のうせ　臨子
杉苔のうけもうふくやひのし山　冬史
うけもうもんせそ去ちもんつの山　三津人
鯉もはまもうはなるもの山　一具
うけもの翻ちうくしふ　天逸
鯉もやはまもはまつあひき　ちから
うけもや四五枚とはは足結うけ　祖口
きもより鯉もうもん　小盃　中聖
春結　春結といふくるる寓加へれ　三津人
きもをまつ四五まもや　都雀　乙二
春結や新とちもつとちう速　雁衣

一具　系辨　殊丐　南柳　多姫　天恵　一甫　多郎　多志　万衆　多吟

白うれやき結ぶ結まきまきし
大やうまきまき結ぶの山家うれ
彫杖ゆ机まきを結ぶ
つまあけまき巻を結ぶ
拭をりて巻結ぶの病起ぶ
一りつかまきや巻結まき
まき結やまきりまきまき
巻まき巻巻巻結まきぶ
まきまし巻しまきまりまきぶ
鉢の朱まきまん柳の巻し
三井戸や巻まきまきの巻

夷近

巻まきく正月巻きまきまぶ　物宝
行まきまのまきまもせぬ山家うれ　士朋
ゆく年や職人町の巻結巻　年心
行まきまきまうまく巻結まうまくぶ　三津人
りまのうまきまうまる服のうれ　也翠
行まや蛙しき物把の夷結孔　紙年
行まきの活まんて時このめぶ　甚山
りまや紙抱てり義の和く　波国
りまやりみのまくまくまうれ　荷子
りまや陸まをまりまりの後を　為よあ
行年やセツまりまきみ四川　有吉

年暮　草芦袋のあるうやうの名　蓼太
さくさくと蓼くうるとしの一日ぶ　士朗
年暮ぬ笠もきぬ雨うし　成美
小姫はまくらやとしの雪　寒杉
梅の実梅もせやとしはれ　巣兆
沖は帆ちせをを舟をうの雪　一具
行くうもをそうよ年はれ　而后
汗のぬるるを逢ものやとしの雪　助宣
掬の白髪あるやとしはれ　あよめ
とう寺のなきもちまち年の雪　英山
蓼を行くもや船の蓼きさき　阜池

年若歳
年は名残の雪のうり火ゆくれ　雪山
年もまもや後ろあれ年の雪　雁岳
竹線を年の名残やかくまき里　伯逸
年の白くれもちまちの名残れ　五竹
をもむとをなくれと年の名残ぶ　中梨
年　尾　年は尾のちくれひくまれ　半翠
とりの尾やくれ浮うしまの雪　梅令
年は尾や眠まちもあきの風　雪山

年社尾や宣ゆる種の寿　文路
とのをや毛角ゝ伐る庵社竹　好甫

年惜　只春を年をむと宣ゆる　樗堂
とをむと宣生年ゝ海の子　仲六
ゝけ春を暮て年を惜ゝ　阜池

大三十日　ゆくゝ年のたゝひををむ　一具
みとり年社寿ゝうくし　大年ゝ　年心
大三十日大きな宣の海ゝ　士朔
四月ゝいつなゝそ大三十日　邪衆
いつゝ社ちいのゝや大晦日　為ゝ
ねのゝゝ春ゝし大晦日　美父

猫の春ゝの鼠をあゝや大三十日　波回
庵庵へ好ゝくや大三十日　万像
みの山ゝ出ゝ海ゝを大三十日　寿角
いつゝゝゝるきゝの大や大三十日　雀文

大年

相殿や拝社ゝ　大三十日　一具
大ゝゝや宣ゝて足ゆるゝ社山　仲六
大ゝゝや年社寿ゝ春ゝ　好雅
大年や行蛇ひゝ牛庵安　英山
大年や掃て〆切る一庵安　完伍
烟の庵大年ゝなゝ社ゝ　粗文
大年や大ゝ社ゝて宣ゝ社尚　風尚

年夜

年ゆく春や幾の四せん　保吉

年ゆく春や幾の四せん　幹之

年ゆく春や何の色さうなる　芳美

年の春はひとゝ張ちれや絃の杉　雅意

年ゆく春や絃と走る　小亞　甚言

年の春や吟うゝ杉山ゝ　吟嘉

年の春や絃と走る　乙二

ゝゝ　芳之

除夜

除夜ゝゝ　芳之

除夜ゝゝ　杉宝

除夜ゝゝ　等載

ゝゝ除夜の　井眉

除夜ゝゝ　一具

ゝゝ除夜の　水竹

組板の　伯竜

ゝゝ除夜の　由梨

ゝゝ　太夢

岡見

ゝゝ　月居

書詩　護物

四ゝの　太鵬

絃つゝ　惟孝

山ゝ　面梁

ゝゝ　由梨

和布刈神事

和布刈神事の起あるは神事記
曰ふ可ゆえ和布刈を御祓と呼
人行世のふゆえ和布刈の御時
和布刈姫を神代の時記
神ふるあるとそれぬる和布刈
ゆふるく家のあるれまる和布刈
年籠

年籠祝中一座主
年ふるのは姫あるふ
居住座のあるふ
参ふるとそふと祈る年こふ
まるものふ見しふ和年籠

長月

白雄
瑞馬
荘文
丁知

落葉

行人のあしまふまる落葉
野ふ和歌落葉ふ
ふの江行ふふみふふ落葉
夕のかくふれる落葉
ふふふ相ふふ立ふふれ
一ふくふのふふ落葉ふ
あふふ歌ふれ我庵ふふ
ふふふ中猪柵ふふ村落葉
恵心寺ふ行ふる落ふれ
ひとり菴あふ庵柱ふ落ふ
野のふふんふ柱ふふれ

蓮村
士朗
成美
万和
三津人
寄洞
月居
吾夫
蒼机
風洞
東池

二りあまり庭より梅の花の
咲初て枝ぶりも
面白く
庭ぬうちの梅の花
ふうれ葉て手折る物と梅の
てれ思とつ
きつふしよりく最の梅の
ふきとまとく
数多の結すも強しおちたる
かたまりつ
はあらへ出て
らきらう温泉
梅一本みて
一坪の
魚はうく
梅の花
花賀ちを
ひらけなく
小坊とも
降水梅
りけを
梅て来る
梅つくとも
梅はうう

大梅
面白
朱是
梅宮
年郎
有芳
天地
一杯
而后
夏山
甚山

梅の花の小庭の
林書
迷閑
曽三
外六
乙二
風朔
月庵
沙路
源芝
曽兄

而后
相漁
等載
蓼太
一茶
風朔
白雄
六鵬
幻芝
一具
柳通

散紅葉

枯柳

蓼太
白雄
士朔
柱生
李湖
紫紅
柳水
五線
柳宝

枯葉

柳枯て弓ちのき町の灯乱　角あ
枯なりや葉押よせる堂の垣　樗堂
低らく葉へ枯ゝ冬　一葉
冬ゝ葉やおあ人おくせ人枯ゝ　風朗
葉は秀の風とかゝて枯ゝ冬　雄歌
冬の中枯ゝも白ゝ庭のきく　舎用
年ゝ枯ゝ葉は遅蕾　甚山
枯なゝ秀ゝ立葉のちゝぶ　仙鬼
葉枯て枯の月数の古ゝ乱　女葉
枯ゝ中月ゝ乱ゝの二　乙二
野の冬は庭ゝ枯つ庭は葉　月朗

枯萩

ちは萩芒ひゝちゝ枯ゝ冬　志丈
ゝき枯て中ゝ月ゝ乱ゝ数ぶ　柳雲
か色くゝ残ゝ萩の秀　晩壽
冬は来て秀ゝかゝて芒は萩　什久
ゝちゝ中ゝあゝ枯ゝ萩枯る　風朗
萩の種の細ゝつくゝと枯ゝ冬　京池
萩枯て中ゝくゝ枯ゝ小池ぶ　叶月
ゝゝきゝの残ゝ萩枯る　夷則
多ゝく川渕の芒か色ゝ冬　樗堂
人ゝゝ冬ゝ見ゝゝ冬枯ゝき　一茅
ゝゝかゝの枯ゝ　寄渕

多種のひさうなる枯尾花　然く
まうけぬるそのやうくかまし芝　露白
結て来る山のりまや枯すゝき　而后
眠るかれて咲るまこと芝　あゝあ
梅杞垣〳〵枯かゝきやらすきゝ　游蕊
咲れるかるてすきゝ　梅宮
業州社繁るきゝ和枯尾花　蕊村
ゆくゝ枯つくなるぬ枯尾花　愛素
尾花枯て心ゝ残るそきゝれ　士朗
年〳〵人生て繁〳〵枯尾花　吉表
一数ゝ枯色の来る尾花　蕉雨

さきゝ枯もゝのけゝ高ぬ枯尾花　月居
淋しさをゝれて久し枯尾花　素帆
ゝゝ〳〵ゝ繁て見ゝ〳〵ゝ枯尾花　大梅
かるくゝとゝ〳〵ゝ枯尾花　風朗
あゝゝゝ日を皆淋しゝゝ枯尾花　年地
枯てゝれゝゝ西もゝ尾花ゝ　吉多
わゝゝけ枯て尾花枯ゝゝのし　秋陽
家見ゝゝ形ゝゝゝぬ枯尾花　素白
一ゝゝて淋ゝゝ〳〵ゝ枯尾花　白路
刈あ枯ゝゝなゝけゝかゝ尾花　彩左
望のけゝ海の時ゝ尾花　為山

枯芦

枯こし尾花の中や枯け苗　成子あ
枯こさく新をもとめ屋敷かな　喜雀子
枯ものもの所こそ見ゆる枯屋敷　柳宝
四方細き枯さき屋敷や枯屋敷　孤雲
枯芦枯日ゆくれて流れ行　冥交
枯芦の川巻の芦枯葉かな　曉臺
枯芦の蘆あるよ乗る身哉　士朗
枯芦や巻のちらつく風枯れ　乙二
枯芦や流れ巻けつる風の跡　芭蕉
枯芦やりゆく夕雲枯毎　嵐外
一具

枯芦やもく枯ぬきもよきも
枯てうせ枯てうせけり池の芦　乐木
芦枯てあるの風ふく　洗うれ　乃音
八重むぐらく丈きかくさなりけり　白雄
むぐらく枯て見渡されるる家かな　千聚
舟あるてふふき岸や枯むぐら　竜渓子
月しろ枯て芦しし枯むぐら　ちる花
二度と芽を出さぬ枯むぐら　風角
庵の薄枯るよ枯よけど　有芦
枯菅

ふる菅枯きし源氏の月こそ　也聚
菅枯て流れ庵の壁　蓼帆

枯蓮

枯蓮や大覚寺にて由来書　鳳朗

枯蓮や雨降る日は見ゆる里　祖仁

枯まゝりかゝぬも残し岩のかげ　一具

まだ水気のあまりしに八枯るゝ　竹巷

崩れ生え枯るゝのなし池の蓮　雄岸

蓮は枯葉となりて静也　逸湖

かれ蓮や見をも留むるも立　波静

むきしく枯て崩てまちまち　万古

みつかきりのまたなりてかれ蓮　浮巷

枯蓮や小舟の浮く人は新　由誓

枯蓮は墨画や思ふの夕べかな　松什

枯草

枯れたる草に難もあらぬ井戸の井　梅通

草は葉やかゝりて見えて枯すゝき　春浩

草枯る種草は色く磯の礼　芝叢

枯草や叡山見ゆる牧は駒　蒼湖

かれ草やすゝきの枯る雨は　雨塘

草枯や十は枯るゝもおみしる　寒松

枯草やあの日さ浦も遠月は　洲風

草枯て身の風邪の聲のにか　如大

枯草やあまり出てある車　二葉

枯草や芦嶋は暮くて屋き舟　由誓

冬枯

冬枯や梅戸にまかる取月秋　士朗

冬柳の葉くれなゐに桑の畑　樗堂
冬柳やゝ山の方うゝ日おくれ　芝房
冬柳中てらちらちるゆふ烏　升六
冬柳和竹のそゝぬ里もなし　漫々
冬柳和竹ゆるゆるあつて四阜池
冬柳中寒中なる三三山　一幽
冬柳和池一ゝいの夕あつう　蓋宇
冬柳や陸ようゝる縄のうけ　杜鵑
冬木立月ゝ海を忘れ　茨村
ゝゝゝゝ一葉一葉和冬木立　士朗
山里和つをなくて冬木立　蔦三

冬木立　三清人
一林ゝゝゝゝ冬木立　蕉軌
畑ゝゝ冬木立　春白
冬和中家ゝあつて冬木立　丁知
碓ゝ服て見ぬ人達の冬木立　逸淵
小付ゝゝ梅和ゝゝゝ和冬木立　淵茨
冬畑ゝゝ山ゝ和ゝて冬木立　淡史
冬ゝゝゝなつすゝ冬木立　己午
家ゝゝ氏ゝゝゝすゝ和冬木立　逸淵子
冬冬立最ゝ家ある灯ゝけ　万古
冬冬ゝ里ゝ冬木立　一具

麦蒔

麦まきの時百姓共出て麦をうゑ
麦角にて畑と山とをとりまぜ
田に麦をしきくゐへゆけ時に
麦蒔の所西りをうける類に
麦蒔の法の本いまる樹つゝひ
麦蒔の時ひとりにて山の中に
麦まきて後に人来を山の畑
何まくと云ふ時に俵一ツに麦
麦まき所に苅えを種一袋数
麦蒔のはあて所に風呂敷中

由蒔
蕎村
存亜
乙二
沙路
水竹
風外
岳陰
由蒔
一具
こちを

十十

蕎麦刈

麦まきの時の玉川一まくき
又山の中にはのう蒔てものく隙
そばのうち絶て又蒔とんか
そばのうち黒穂山もみちて
そばのうち苅寄こゝひらまて畑
大根曳

ひきまきの大根の葉のあしし
出かけ車も和せや大根ひき
和こゝろあてらり和や大根ひき
曳よきを稼ぎあてかゝ大根ひき
曳旬を男人のせつく大根ひき
稲舟て田をきくら星や大根曳

杭宝
升六
年猪
一宿
紅仁
白雄
成美
蕪軌
雲白
護物
年池

芸

[illegible]めて咲きひとりの大根哉　旬光
蘭刀取高のちけらし　大根哉　柳宝
高ゆしくもきれそう大根哉　卜山
加茂川で見も洗し和上　加哉　文蓼
哉屑は[illegible]足えぬ大根かな　雪鮮
蒔ひ蒔て大根白き　秋晴かな　而后
哉これを拉象の賜ぞ　大根乱　素行
打ぶりの[illegible]を数取りし大根哉　昔足
結つきに寄られて大根哉　有音
[illegible]のをもう[illegible]る哉大根乱　卓郎
[illegible]水はくまつ出かつら　[illegible]松

葱

[illegible]の[illegible]人ら皆かつら哉　龍外
子[illegible]と呼てう哉かつらかな　巣兆
[illegible]ゆ[illegible]の[illegible]和　蕉門　秀雄
葱[illegible]て拉[illegible]を[illegible]る乱　蕉村
小式部[illegible]文足拉海細　士湖
葱白し一[illegible]の[illegible]なる[illegible]　[illegible]
葱細ゆ[illegible]て[illegible]る紙[illegible]かな　三[illegible]人
[illegible]たる[illegible]ある拉海かな　龍外
葱[illegible]中細き月最[illegible]拉海かな　沙[illegible]
[illegible]の[illegible]也かう葱[illegible]　為山
葱[illegible]う哉[illegible]葱　逸淵

水仙

水仙や根よりあまたの芽を出す　田螺

水仙や根よりあまたの芽を出す　蕉太

水仙大仕立きりくしの一茎　半翠

水仙野卵の殻の光り　三湖人

詰咲て水のひかりや水仙花　蓼紀

水仙や理よりあるべき所より　為有

水仙や根よりあまたの芽を出す　市くまれて市くまれる　白雪

水仙や雪をかぶりて水仙花　風朗

水仙や眼のあるものの世知く雪のうち　雪洞

ぬくいりをくいりの白ひやう水仙花　如風

石蕗花

水仙や雪をかぶりて蝋燭を　春山

水仙のうく尺をたてさうな　丁知

いつ見てもあきくる寒やみな仙花　春水

筆州を寒うて水仙花　等栽

水仙や町家をれ出ひと搖　孤古

きびしきの眼ぬけかるやつまの花　蕉太

りぬけるさきうたるつまの花　白雪

尺ものの手ひしをうつまの花　月居

筆をよくそよ立神さうつまの花　田螺

石垣ちかの高の花　蓼紀

うくちぬけ塵ちあひつまの花　護物

淡紅　里恨　白雄

万和　針六　大梅　水木　定白　等載　由聖　一具

枇杷花

ひとの色油寒のうるつやかなる
さんしやくもりあたれすひとの色
枇杷の色りうれい面たなうる色
ひとさくや一寸ほうて咲き色
ちうけくりうちうひとの色
我ひとう侍と枇杷の色さう
杉竹は寒さたれひとの色
ちあるもみんさうひとの花
りのみやいとたつきひとの色

菜花

掃なのの色のくうひとの色
菜の色やらもまもも来る
菜は色うたくんの色舞梨
菜の色は秋ちの月の白ひ
色さくをとうえるやう古菜
ちうぬちうやうの菜のつる
人ちを見て菜の色をおせう
菜の色や国の紛もなくは和
菜は色の野やれるもなし
菜の色は下掃出ちや蜂の売
菜は色やちうと菜は月

梅室　基村　白雄　士朗　色売　万新　卓池　朱足　由聖　一具　尺山

八ッ手花

[illegible]

梔花

[illegible]

冬

梅花

[illegible]

椿花

[illegible]

帰り花ことしもめでゝ咲木かな　風朗

枯ぬ梅もそよくかへり花　霞外

折かけて見出す梢のかへり花　蒼虬

黄葉あけさとられぬ帰り花　淡叟

あらもれなつかしや庵の帰り花　卓池

咲くらふ影しれぬさもなくかへり花　蓬陽

ちらばこのよらぬさいれぬかへり花　完種

麦にさく麻まきさまて帰り花　如よめ

植也や一本ぎり出てかへり花　為山

鞍馬山やよど訪くつもりかへり花　九起

松そうけし渋のかりやかへり花　可正

冬牡丹

帰り花翠らんまくあをきれかり　梅室

冬牡丹さゝ色させなく菊果ぬ　標堂

錦壁に淋しさいはまし冬牡丹　月化

十月ともいくれ見えぬ牡丹かな　乙二

冬牡丹筆本の外やう思はれき　蕉雨

僧ひとり手むぞ冬牡丹かれ　井眉

君が代の松風ほぬ冬牡丹　蒼虬

庵縁をたく一鉢や冬牡丹　逸淵子

大山も夫ゝ町人や冬牡丹　古篆

冬牡丹蜂も来ぬりおもせて　虎白

ちるときも云二なり冬牡丹　素行

冬椿

薄ずみし奥庵ゆかしき冬牡丹　仙鶴女

移り行くかくろくや冬牡丹　為よめ

尺るく人の御手鉢あり冬牡丹　一具

月明や寂しく鉢る冬牡丹　社氷

華やかくまて程く冬の椿かれ　徐呂

借人の雪持なうをつるき咲　寄湖

空洗ふ南山の葉守や冬椿　淡花

冬つばきさかりうまて咲き残り　燕亮

笹の汁や手もしさきしぬ冬つばき　味含

冬つばき根の下しかな乱れし　由契

稲葉くさきもきて冬つばき　蒼山

寒椿

寒つばき目にて藪あり何連の時　大江丸

干くるもる粉ましきつばき　守墨

手捜もて嘆うせもあり寒椿　岳風

その折生て持さつけとや寒つばき　竹瀬

年ふりて寂尺てもあや寒つばき　寸外

寒菊

寒ぎくやいろいろの名の枯て後　蘇夕

寒ぎくや古屋の水もうる氷　夢た

寒菊中風をこあれ方のいくま　白猿

寒ぎくや出であまえぬ於病好　茂椎

寒ぎくの強さてんせるてり栗ぶ　泰白

寒ぎくや寂しむつき一茎り　蒼虬

雄哉　風朔　万哉　丁如　為山　吾哉　其村　恒丸　樗堂　吾哉

冬

梅

咲とゝもまく　とゝめ冬の梅

護物　由梨　風朔　蒼机　法受　庚年　文政　拙誠　冬とあ　為とあ　一具

冬至梅　庭の雪はらはん伊勢人とゝ冬至梅　士朗
　　梅を風をとゝうて咲かるゝ　　雪志
　　梅を風をとゝうて咲かるゝ　　秋郭
　　梅を風をとゝうて咲かるゝ　　雪吹
　　降うをくられうみる玉梅　　田華
宝暦梅　人も家のつゝあうちなり宝の梅　　風角
　　宝の梅本ゆりもはちのうゝれ　　祖仁
　　ちゝとゝとゝるゝ宝の梅　　風村
　　急りて梅むく人あり宝の梅　　一具
寒梅　立梅を折ひらゝゝや光り村　　蕪村
　　立梅や雪うゝくのうゝ　　蕪村

千鳥　風雪の夜ゝ月の子雪ゝ　　蕪村
　　ちゝとゝとゝれゝ二郎ゝ鳴子雪　　晩雲
　　打ちを先を法ゝ子雪れ　　士朗
　　碑を雪つゝゝ呂ゝ口ゝの民　　樗堂
　　鈴の鳴ゝ子雪れ　　巣兆
　　却ゝゝゝ知ゝ子なゝ夕子雪　　蔦之
　　冬之月打角ゝゝ浜子雪　　乙二
　　ゝゝゝ兵庫八郎ゝ子雪　　風朗
　　角ゝ湖先ゝ西ゝ子雪れ　　東地
　　ひゝゝゝゝゝ之郎の雪ゝ　　蕪村
　　ゝゝゝ風吹つけゝ子雪れ　　渓雲

[illegible]　蕎麦花
[illegible]　大根
[illegible]　万葉
[illegible]　嵐外
[illegible]　蕗白
[illegible]　栃面
[illegible]　林檎
[illegible]　白鳥
[illegible]　双鳥
[illegible]　守耕

[illegible]　其山
[illegible]　淡高
[illegible]　英山
[illegible]　栃宮
[illegible]　弓哉
[illegible]　宋文
[illegible]　甚村
[illegible]　士朋
[illegible]　成莫
[illegible]　三陳人
[illegible]　風高

小春の日

[illegible]　小春の三病完
[illegible]　太祖[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

水雪

作りて志つゝり咲やゝ小萩雪　可淡

葉掘り附たなりて小萩雪　梅宝

雪の中に浜藻刈て山の縁　宋夏

雪雪やさゝやかに見えうちむく　晩志

雪雪や百姓なりし弓矯とる　蕉村

雪とうゝ折うちに鉢雪の宿屋ぶ　色義

雪雪れ初めうちに入えて深雪うり　乙二

雪雪やれぬるを一堀の杜　東池

水雪に いそかめて立ち敷うれ　由契

水雪の松　やとりうれやぶ　一具

雪雪やくゝもうくも舟のえん　杜鵑

雪雪と散うけ加せて峯の月　梅宝

雪雪に深ぶみまるかりの和うれ　淡雪

一羽尺ゝも伸ゝあるよ雪ぶ　可清

雪雪や羽雪ゝしらむ湊うれ　一路

雪雪や志ゝくゝと敷の雪雪　就吉

浮寝鳥

志ゝうゝし人ゝ見ぬ浮寝鳥　可笑

雪雪ゝうゝを浮寝と思ふ　午桂

宝ゝ見ゝ結ばれて浮寝鳥　由契

持つまの物うらやゝ寝鳥　一具

松の葉に雪雪中や浮寝鳥　雪雪

月よりけのゝ雪なりあふて浮寝鳥　風外

梅室　砌山　朱木　祖仁　附壹　石外　成方　苔村　白極　月岳　大江丸

冬

梅室　蒼凡　東池　風朗　義雅　梅通　松什　抱儀　為為　等栽　就古

鴨遊―萩寺の水いろこまて　蓼太
家数又鴨の足水かくとけり　慶壺
鴨共人の鴨とゆらゝゆゝし　成美
紙衣ゆる家を志うる元鴨の者　芭蕉
月おぼをまゝなくする多鴨の者　乙二
水浴のいろきき萩ちり鴨のこゑ　也雲
湖を鴨て理しうる萩ちれ　士朗
一ッつゝ後へまちる中これのかも　東池
ゝかり中鴨なくまうわらき　風朗
きくゝ益ひゝる東ゝ中岸の鴨　沙鴨
鴨かもの正屋ゝ中首出て　志白

浴ゝ者ゝ者の新出ゝ中鴨の中　紙年
浴もせしゝ出浴ゝかもの者　紙雲
かゝなゝ中立ゝて者きし水厠　為山
白望を月の照ゝゝ中鴨のこゑ　為山
ゝあゝゝく出ゝ鴨中ゝ沈ゝゝ　白鴨
組板のひきゝゝ立ゝ為池のゝも　寸風
内ゝゝ者ゝ為ゝ中鴨の者　而后
浴鴨ゝ者ゝ者ちり鴨ゝ萩ゝきく　波用
生中ゝ出ゝゝゝ中池のゝも　芝石
鴨ゝきゝ穂ゝ中ゝ鴨ゝこゑ　成ちめ
浴の日出俄者ゝ鴨のこゑ　就ち

小鴨

鴨の中よりあちこちふかれ
ちらなく下を流れる小鴨うれ
しそうに出て来て並ぶ小鴨ふ
月夜をとりて遊ぶたゞ居る小鴨ふ
きり金で彫る並ぶ小鴨うれ
本のうけうるかこうる等のかもふ
りけきそうきまてきうこかめふ小鴨ふ
却ろ一番で浮のを追ふかもふ
を舟をうけてよく泳ぐこかもふ
遊びうけて平ともなきかもふ
居しめて夕暮うるかのもうれ

樓虫
白坂
蒼帆
子羅
月底
木丈
角よめ
有芳
芳美
和江
尺外

鈴鴨

きりかけおきさけゆる日和うれ
す鴨のきの白板うるなる
珍うるかるこれ面る病苦うれ
きり鴨中ふ彫るむうふ尾あう
鴛子鳴

鴛中鴛尾を鴛て秋を呼
きり鴨中鴛きりめかなる
きり鴨中鴛却中の行ふて
きり鴨きの鳴め梅くの走無ふ
きり鴨中鴛の手をふきちらし
きり鴨中鴛ふうハ重むくち
きり鴨中鴛きりまい走あり

蒼帆
月芳
淺角
石外
一茶
蔦三
九董
雲白
清友
たゝえ
蓮宇

鶴

鶺鴒

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鷹あれて雪の秋となりうるを　風洲
あく嶽中花をはきうし鷹の夢　英山
ひとうちに本源を入ぬ鷹をと　南枝
まつとしたを鷹の一点　一帆
新ちうも城ら鷹に旅商れ　梅宝
川口を鷹に鮭の小　一の筆
砂川を城中はちる鷹を　大江丸
少将のうけふる鷹れ　一具
刻をふうもや鷹の小百姓　大鵬
かう将や鷹をもて月をし　蕎水
ちをの巻をある鷹を　南幽

鷹野

鷹将　鷹かりに出て生涯し松の響　奇洲
四鷹のこなるまむ春の秋　夢太
将を行先や鷹場を行　時雨　風樹
鷹野や鳥を伊勢の雪ふし　響秋
鷹野や出る月を列車一を　松祝
鷹匠　鷹匠に出る春日の乳　逸流
かの匠の秋をうう　柾垣　味舎
ちをを行鷹や海ふき胡鶴　由楚
退鷹野　退鷹に歳をなりし鷹れ　雪岳
大男退鷹のうをれを　逸洲
鷹に鷹野の鷹を退鷹野の鷹を　万古

多叫　多叫や狩心うるの古河沼　確岩
多叫や多ろうと言る杉の苔　蒙稗
多叫やいつしら出一宝社用　小圃
多叫や立ちれうるり巻の色　乙張
多叫や多ちれきえの去る小さう　大鵬
多叫や清子は破も必ずもち　山肯
多叫や清子は破も必ずもち　小圃
多多ちて列幸縄をくるる淋ぶ
列幸縄や赤うこうし素赤　二の筆
列幸縄や虜おるのれむうき　文叙
教草　ようろん逗太蓮なりけるを〳〵子　奇淵
かとふ言もかりらぬを〳〵子　渡物

力草　拙〳〵ろも言ふ〳〵和虜ふ〳〵子　南ろ
力子きを言ふ〳〵和虜ふ〳〵れる　純岳
生ふ〳〵ろ中虜ふ〳〵ろ中ふ〳〵ふ　高山
力子あ〳〵ろ和ふ〳〵ん中ふ〳〵ろ　波図
七子〳〵ろのを言ふ〳〵和　力子　必為
夜興引　萩奥引ふ〳〵ふ〳〵ふ〳〵ふ　軍文
清奥の不ふ言ふ言ふ〳〵萩奥引　葉布
萩奥曳小も徑火ふ言ふ言ふ〳〵萩奥引　葛古
病小や〳〵ふ〳〵ふ言ふ言ふ〳〵萩奥引　泳物
十年の言ふ言ふ〳〵小部も萩奥引　小藍
垢越の糖物ふ〳〵せう夜奥曳　一奥

暖鳥

[illegible]

[illegible]

木兎

[illegible]

寒苔鳥

[illegible]　迷渕
[illegible]　素行
[illegible]　蒼宇
[illegible]　柏樹
[illegible]　祖心
[illegible]　芝村
[illegible]　雄峯
[illegible]　寿紀
[illegible]　岳濱
[illegible]　[illegible]山
[illegible]　波同

冬蠅

[illegible]　白雄
[illegible]　[illegible]九
[illegible]　寒杜
[illegible]　湘雨
[illegible]　[illegible]河
[illegible]　淡雪
[illegible]　風村
[illegible]　万古
[illegible]　元

冬蝶

[illegible]　而越
[illegible]　夷則

凍蝶　凍結中凍んだ者のあるそうき　白雄
みの虫ちゃ義ゑて蝶を凍えさう　七蓑

網代　網代あの人位とうそ月を見し　白雄
月潔く一二枝あり石ゆるゝ　嵐雪
上ミ方と一年知るのあり石ぶ　風網
波半中網代のうへのちゐとし　老洞
ちゐれちゐあるもゐ雲枝をうぶ　祖仁
乾風中方を吹く網代小屋　由聲
雲うつうつ見くや網代方　蓼太
あるちゐ波を山枝ゐ長御を　士朗
君ゐ代の意ゐ志ゑ人やあり石　漫々

あるちゐ冬の新年き　月居
あるちゐ波枝家くうけを　蓼軒
かゝ方枝河ゐなゝあり石　定白
ちゐ月を義ゐあり石　柄宝
仮ゑゑ人姫ゐ枝ゐあり石　一具
なるあ方ゐ楚史ゐ波ゐ河石　彩左
新年ゐ新月をゐもやあり石　白路
ゐうゐう数ゐやあり石　ゐよあ
あるちゐ花ゐゐゐ世の佛ゐ　雄歳
整刺ゐ年花西あり石　落山
ものゐあゐうやあり石　由聲

羅

氷魚

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひと者といふ人飯をまうけ
つ川や飯もらさしあらひやう
飯搗て窟の白きる戸口ト
飯搗て稼穡を行ぬ寺社つ
飯けや職人町のまや仕也
更て者をとの飯樽をらしき
鰒 鱶 鮫 鰯 鯨 鱈 鯉 鮒 鯉 鯛 鮭 鱒 鯉 鯉 鯉

牡蠣

生海苔　梅宮
ちらし　流芝
郡山　沼蕗
紅葉　白
の大
月　月外
魚店　雅孝
仙人掌　田聲
うば桜　士朗
かく蛾の御　白雄
ひとり　大鵬
ゆめ　桃年
うきもの御　山の色

乾鮭

うば鮭　白雄
かく鮭　保吉
乳鮭の形　護物
乳鮭の投　祖仁
うば鮭や四中　田楽
かく鮭の　一具
ふき　芦葉
一本　我柳
蕪　尼村
火を起　八鶴
うば鮭や重　湧水

鰤

引捲てんぜうの鰊の裏物を　文冥
鰊網と柱まもけう行燈　楊里
燒や鰊の吼　嘉の海　曉壺
ちこりとゆきて鰊もなつうき　月居
忌初百もあるくし　鰊つき　梧十
大なみなかつて舟や鰊突　祖仁
鰊を立や赤出を鰊法き　好南
引ふせて手ふて等う鰊れ　由楚

時雨月　行人ちさのうなるあしれ月　七峯
月をかくるあ春ちくさ月　御坐
立冬　冬立や梅もさくも林光く　亀國
立冬の雪ふあるあ冬小垂垣　涼湖
日短　大はアりはみしかりぶ　葛三
りみーふ時は越うつきぬ咲　雅岳
短りの夕ケ出し　祈の松　朔城
誓文拂　君代や誓をのくを神こそ　万岳
冬菊　色もあも春ふあれつ冬の菜　学有
りまとなく姫程ふの菜白し　一具

水掛て寄る年なめくしの葉　壺天
枯ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]れも世めや冬芒　青表
冬竹　冬の雪寒は殊まり足せぬさり　左文
又ちれて[illegible]氣夕の[illegible]冬の子　琴堂
霜草　そ[illegible]ぬ[illegible]高く高くぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]

枯芝や沈みてもとの芝の形　市心

埋生の妻　家老の弟も妻も埋生の
ゆかしや芽を出す埋生の妻　小蓑

芝菜積　芝をつけ詩を西上行使をうれ
もも香も家出し味ある芝菜哉　道流

雪やけ　雪やけの足ぶるふる長靴
花揚しそこ雪やけ色し宜休し　完来

雪野　雪野の又池原ら雪の野
ひとり居てたゝるや雪の野　志丈

家の住そこれより四人雪のこゑ
家の住そこれより四人雪のこゑ　波田

炭凍　炭凍やりらくおろる蔵は著
炭凍やニ三のとまぬ味ゆめと　九之

古火桶　白ぬりの古火桶
みやこゝも蔵出幾人古火桶　丹居
　　蕉村
　　巣城

懐炉　懐炉を蔵人
懐炉を蔵人　外六

手炉　手炉をもくゝ
手炉をもくゝ　万家

温石　温石や竹はは
温石をもてあそぶ温石　秋吉
　　茶静

白炭　白炭や多
白炭や多　一面
　　表英
　　祖口
　　保吉

白炭よ雪萩をしらぬひとなし　西洋
枝炭　枝炭よ枝敷をたなとす　玄屋
枝炭のうをうゑつる屏風哉　三女
枝炭よ雪ほの雪さかり　惜俄
小野炭　炭の香や小野とたきし志賀の山　書翠
炭つけ小野の供ゑ　梧十
厚衾　君うゑや厚き衾を市ゑ　葛三
白風や新しき厚ふ屋　吉鳩
古衾　かしらやうん祇ゑ和古ふ衾　蕉村
先とそ小萩の庵ゑ古衾　雅窓
箭栗　かくてきの栗をそそきて老の涙　乙二

かくてきの栗ゑ和義ゑん　乙二
冬鷹　きのしやかうと蕉ゑ八ゑの明　寄洲
年ゑ和ゑをそそ八ゑ和　由楚
冬鳥　冬ゑ鳥ゑ蔵をこゆる　吉鴻
山風の吹出ゑ和ゑ　乙二
冬蜜　蜜ゑ行ゑ冬ゑ蜜ゑ　三津人
冬蜜　蜜ゑ蜜ゑ四の島　案史
冬鹿　冬ゑ鹿ゑ雪ゑ和ゑ　吉翠
鮫　ゆくゑ鹿ゑ和ゑ　杜蕾
いくゑ雪ゑ和ゑ　梅便
雪ゑ冬ゑ鮫ゑ　月渚

竹筍　うまく煮たる竹筍に　春亜

翌朝なをあめて竹筍に　以元

魚の皇て竹筍をかくる月の塵　柳月

朝味噌　たびしくて和漢山ゐる　雪人

懸突　懸突は四十を老のてしめに　由梨

懸突和望くと言ふ時おろを　采文

氷鮒　氷鮒みやこを魚を姫松に　其翠

らうめて魚らるるあり鮒　万岳

庭燎　焚人はうみうる庭火に　白桃

一夜さを梅の耳うん庭火焚　春丹

報恩講　海人うれつけて京うた京月　芝光

うまくの涙もろさよ行春月　乙二

十二月　新風は多本よりも十二月　鈴山

十二月ら〜やを来てくるる杉おも　岳陽

乙子朝日　新うやを乙子は是神まるて　雨芦

乙の子は年一年和山紅さし　方吾

乙子餅　川ひろう三の橋をうるん　寒松

麦くるるうて戸ちさしひろう　隨物

旅人を祝後ろやを乙子餅　石猿

猟梅　猟梅は色うるのさるうる　雅窓

寒竹　寒竹や三ちくもなるめ鶴の新　也蕉

寒竹や花の友を和ひとり　梧十

暦巻網　きりぬうせまし　暦の巻をさめ　雨垂
まる年のあらてはなき　暦こうれ　雄蔵
退　難　は角て鬼も拂ふて　大わた　色表
ゆうまかんする男やうやうし　前高
とり出を巻めぬ暦る　退難ぶ　方古
門杉賣　杉賣ひめて度年を　寿ようう　高三
仕事りも知るさ　人やうう　杉　乙岳
門杉立　杉立て門うら　新ようう　可門
杉賣りまけきかうめ　庭の門　風朔
杉立て見んらく　行とうぶ　左琴
葉竹賣　賣ん見めを　思ひ　竹賣　寿井

色叮て賣　仕色ようう　竹賣　桐居
義のあるを　行るる　竹賣　好南
歯磨賣　望も　洋　歯磨　賣も　賣し　庵のあ　士朔
歯磨賣　歯磨の　歯磨　老の　心も　洋て　れ　河色
穂長賣　山里　師　色なて　穂ようを　可風
まめやうう　賣ぶ　ぶ　穂も　賣　一九
服部板賣　見を　て　て　板賣の　ぶ　れ　歩宅
小豚日　雪日　ありと　たの　むも　れ　山　蔵の　蔵多
のを　皆　た　時　ぶ　ようを　山時日　波路
捆けようう　傷ぶ　ようを　山時日　為山
年取　色の　ぶ　硯あ　ぶて　年とう　色表

年の夜　年の夜

年の夜

年の夜

春隣梅一味ちからをとなうる　志賀
寄ちなる約束もあり春隣　兎洲
別歳年もまた和合さ嬉しさ別れ　風為
梅形を形んと毎の別れまた　岐山

江戸書林

日本橋通壹町目　須原屋茂兵衛
同　貳町目　同　新兵衛
同　四町目　同　佐助
浅草茅町　同　伊八
芝神明前　和泉屋市兵衛
横山町三丁目　和泉屋金右衛門
本石町十軒店　英大助
日本橋通貳町目　山城屋佐兵衛